

周辺の
みどころ

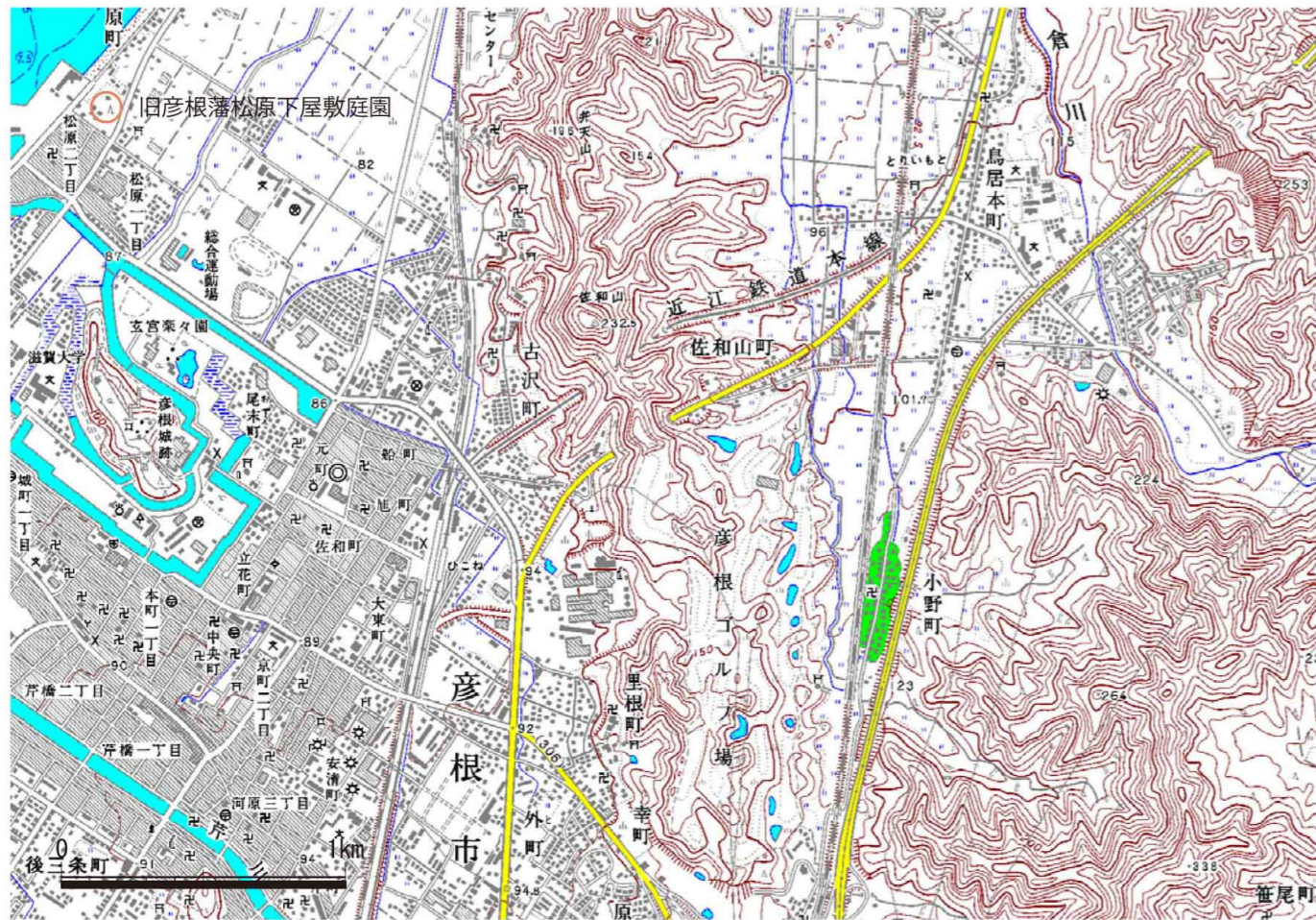
彦根城周辺にはみどころは多い。
観光地化であるキャスルロードを芹川の方
に向かうと善利組足軽屋敷がある。この敷地
は現代的な建物が建っていることが多いもの、
道路や敷地は江戸時代の区画を踏襲しており、
雰囲気を楽しむことができる。

また、辻々は遠見遮断のために道が食い違っ
ていたり、辻に設けられた番所にはのぞき窓が
設けられている。

旧彦根藩松原下屋敷庭園とともに、ぜひ足を
延ばしてみたい。



善利組足軽屋敷の辻番所（のぞき窓）



[アクセス]

- JR琵琶湖線彦根駅下車。
徒歩約30分

[もっと詳しく知りたいひとへの案内]
(関連文献/関連施設)

- 彦根市教育委員会文化財部文化財課
Tel. 0749-26-5833
※常時公開されていませんので、問い合わせくだ
さい。

きゅうひこねはんまつばらしもやしきていえん
旧彦根藩松原下屋敷庭園

彦根市松原



秋の旧彦根藩松原下屋敷庭園（彦根市教育委員会 提供）

慶長5年（1600）関ヶ原合戦以後、戦国の動乱
も過去のものとなり、徳川幕府の安定政権の元、
「天下泰平」の世が来た。城自身も戦いの場から
政治の場、生活の場へと変化を遂げた。藩主にと
って必要なものは、高い石垣よりも、深い堀よ
りも、堅牢な城壁よりも、大切なものは煌やかな
御殿や、心を癒し、愛でる庭となりつつあった。

江戸をはじめ全国の大名家たちは、競うように江
戸上屋敷や地元の城や邸宅、別荘で庭園を築造し
た。その結果、江戸時代に日本庭園築造技術が飛
躍的發展を遂げたといわれている。これらの庭園
を総称して大名庭園という。庭園と一口に言っ
ても、庭園には時代によってさまざまな形と様式
のものがあるが、特に大名庭園の多くは池泉回遊式
をとっていた。ここで大きな役割を果たしたのが
水であった。





冬の玄宮園と彦根城（びわこデジタルズビューロー提供）

旧彦根藩松原下屋敷庭園

所在地 彦根市松原

表御殿（上屋敷）

安土桃山時代以降、天守での城主の居住はなくなり、次第に天守足下の本丸御殿で政務を執るようになった。慶長期にはいと彦根城のようにそれはより明確なものとなり、天守は形骸化し、本丸御殿は、その機能と共に大きく複雑な建物へと変化を遂げていった。

彦根城の表御殿は元和8年（1622）には完成したと云われ、以後明治の廃藩まで藩の政庁として機能した。表御殿はこの間、250年の間に5時期にわたって改修がなされた。御殿の基本的構造は、政務を行う「表向」と能舞台、居住区である「奥向」に分かれる。「奥向」には江戸時代後期に長局や庭園、数寄屋が建造された。

庭園は上下水の配水システムを利用した池を中心とした池泉式で、藩主の居所である「御座之御間」からの眺めを考えた景観となっている。現在表御殿は彦根城博物館として、絵図を元に

復元されている。

榎御殿と松原御殿（下屋敷）

榎御殿（玄宮園・楽々園）は内堀と中堀との間に建造された下屋敷である。下屋敷は、延宝5年（1677）に、彦根藩4代当主の井伊直興によって建造され、同7年に完成した。御殿は、松原内湖に面した干拓地に建てられている。御殿は、書院や能舞台、茶所のある「表向」と侍女詰所、奥御座之間、地震の間、安楽亭などのある「奥向」の大規模な建物と庭園を持つもので、文化10年（1810）の大改築では下屋敷でありながら表御殿を凌駕する規模となっていた。庭園は中国の宮廷に付随する庭園を「玄宮」と言ったことから玄宮園と命名された。庭園を見渡す場所に「臨池閣」という数寄屋建築が建てられ、広大な池と島を中心に9つの橋がかかり「鳳翔台」をはじめとする十景をめぐることで地泉回遊式庭園となっている。水は外堀からサイフォンの原理で引き込まれ岩間から



明治時代の旧彦根藩松原下屋敷庭園（彦根市教育委員会 提供）



松原下屋敷庭園絵図（彦根城博物館 蔵）



早春の旧彦根藩松原下屋敷（彦根市教育委員会 提供）

水を落とし滝仕立てとしていた。松原内湖の面した北側には船蔵と水門があり、城主は松原屋敷に向かうときにはそこから御座船で御成した。

本来であれば、下屋敷はひとつでそれが榎御殿であるが、彦根城は琵琶湖岸の城から離れた位置にもうひとつ下屋敷を構えている。それが松原御殿（お浜御殿）である。松原御殿は別邸であり将軍家の別邸である浜御殿、現在の「浜離宮恩賜庭園」を模したと考えられる。彦根藩11代当主の井伊直中によって、文化7年（1810）に建造された。

屋敷地の面積は約20,000㎡を測る。敷地の南半分が御殿、北半分が庭園となっている。庭園は琵琶湖の水位と連動して水の水位が変化する汐入形式の手法を用いた池を中心に、緩やかな起伏に富む地泉回遊式の庭園で、西側は州浜の広がる穏やかな景観で、東側は築山が折り重なる深遠な趣となっている。淡水を用いた汐入形式の池を持つ大名庭園は、全国で唯一のものである。明治4年の廃藩置県以降は、近年まで彦根における井伊家の居宅であった。